

令和7年度第2回伝国の杜運営協議会議事録

○ 日時 令和8年1月23日（金）午後3時～午後5時

○ 場所 伝国の杜 第1・第2楽屋

○出席者

（委員） 8人

倉田 哲朗 後藤 亜矢子 新井 千香代 鈴木 和賀子
近藤 里美 永井 学 山田彩起子 山村 洋子

（事務局） 8人

曾根 伸之（理事長兼博物館長） 渡部 洋己（常務理事兼事務局長）
花田 美穂（学芸担当主査） 阿部 哲人（主査(学芸員)） 安部 理絵（主査）
寒河江 大輔（総務担当主査） 小松 史織（主任） 菅原 詩織（主事）

1 開会

2 理事長あいさつ

開会前に観覧いただいた企画展「ブルーノ・ムナーリ」は、しなやかな発想と自由で豊かな感性を呼び起こすことを目的としており、伝国の杜の教育普及事業や体験学習室の利用へも繋がる要素を多く含んだテーマとなっている。また、今年度は令和3年度から5か年に亘り、米沢市教育委員会が推進している上杉文書の研究成果を活かしながら、「上杉家の御殿」、「上杉謙信の祈りと信仰」の二つの特別展を開催した。置賜文化ホールについては、今年度も様々な事業を行ってきたが、11月からは空調設備工事等で利用を停止している状態である。その代わりに、エントランスと能舞台を活用し、「メガトーン・アンサンブルコンサート」や「KENSYO de JAZZ」を開催した。3月7日には、好評であった「KENSYO de JAZZ」の2回目の公演を開催予定である。来年度の春の展覧会「上杉謙信と川中島合戦」では、国宝「上杉本洛中洛外図屏風」の修復後初の公開を予定している。また、伝国の杜の開館25周年を迎えるにあたり、記念の展覧会を予定している。時代や市民のニーズに応え、さらなる発展を目指し、努力して参るので、本日も委員の皆様からご意見を頂戴し、よりよい運営に務めていきたいと考えており、様々ご意見を願います。

3 会長あいさつ（永井副会長）

本日はよろしく願います。先ほど観覧した企画展「ブルーノ・ムナーリ」では、解説、案内いただき感謝する。日常生活の中に溶け込むアートでありながら独創的な発想にとっても感動した。ブルーノ・ムナーリが行った未来の大人たちへのワークショップは、伝国の杜の教育普及事業にも共通する点が多く、素晴らしい企画だった。このような企画をより多くの人々に知っていただくため、本日は職員と委員で様々な意見交換を行っていききたいと思う。

4 報告及び意見交換

(1) 令和7年度(4月～12月)事業実施状況

概略を事務局から説明。

(2) 令和8年度事業計画(案)及び事業評価指標(案)

概略を事務局から説明。

- (委員) 米沢興譲館高校は、令和8年に創立140周年を迎えるにあたり、その事業の一環として、校内の資料室の整理を実施した。本活動では、生徒が博物館の学芸員から助言・指導を受けながら作業を行うことで、地元の文化や歴史に関する理解を深めることができ、生徒が地元の文化的価値を再認識し、興味関心を高める有意義な機会となった。
- (委員) 伝国の杜の体験学習室はとても充実していると感じた。展示に併せて実施されるギャラリートークは、大変魅力的であり来年度の展示についても期待が寄せられた。一方で、子どもたちの利用促進にどのように繋げていくかが課題だが、教員が率先して体験的に学ぶことで、その学びを生徒へ伝え還元していくことが大事である。
- (委員) 雑誌「歴史街道」に特別展「上杉謙信の祈りと信仰の」広告が掲載されており、謙信の特集と共に博物館の展示が紹介されたことを嬉しく思う。フリーペーパー「やまがたコミュニティ新聞」にも記事が掲載されており、地元向けの広報にもなった。企画展「藍のものがたり紅花のものがたり」は自分にとって身近な題材で、関心が深く、着物の展示をメインとする大倉集古館へも足を運んだ。展覧会では、映像資料の展示があるが、それを編集して店頭で販売して欲しいという声もあるので、検討してみてはどうか。ギャラリートークの際に気になったのは、稀に展示室などで飲食や撮影をしてしまう来館者がいることである。展示室などにサインを掲示するなど対策できないか。周辺施設連携の企画としては、伝国の杜も参加している米沢五武将印めぐりのスタンプラリーは、各施設を巡る機会となり、楽しめた。
- (委員) 年間の展覧会を通して見ると、米沢は歴史、美術共に恵まれていると改めて感じた。中でも企画展「藍のものがたり紅花のものがたり」が一番印象に残った。映像の展示が魅力的だったので、販売などがあると嬉しい。また、展覧会の図録があれば購入したかったので、また同じような機会があれば図録を販売して欲しい。今期の企画展「ブルーノ・ムナーリ」は、現代アートの起源となるような柔軟な発想が多く、どの作品も楽しく鑑賞できた。また、作品解説も漢字にフリガナがふってあり、幅広い世代に配慮された展示だと感じた。ホールの事業は日付も限られ

ていることからなかなか行けないことが多いが、その魅力をSNSや広報を通して、より多くの方に届くようにする事が来場のきっかけとなるのではないか。

(委員) ブルーノ・ムナーリは、折りたためる彫刻など西洋美術では珍しく持ち運びができる作品を多く製作したことがわかり興味深かった。アンケートを見ると、僅かに「期待外れだった」との回答もあるが、人によっては都会の大きな美術館、博物館との規模の差から、そう感じてしまっている可能性もある。対策として、周辺施設との連携事業、タイアップをより強化することで、物足りなさは解消されるのではないか。

(委員) 特別展「上杉家の御殿」と「上杉謙信の祈りと信仰」では、日本史学科の学生が学習のため来館した際に博物館の学芸員に解説して頂き感謝する。全国的にも人気の高い武将である上杉謙信関連の収蔵品があることは博物館としてとても強みになるので、来年度の展覧会もとても楽しみにしている。

(委員) 企画展「ブルーノ・ムナーリ」では自然のものから形作ったり、造形の着想を得た作品も多いと感じた。折りたためる彫刻は、日本の折り紙とも共通している部分もあり、興味深かった。その他のどの展覧会も制作に取り掛かる職員の熱意を感じることができ感動した。山形県がナショナルジオグラフィックによる「2026年に行くべき旅行先25選」に選ばれたこの機会に、米沢の豊かな自然や歴史文化を多くの人に知っていただけるよう、委員の評価活動などを通し、職員と共に更なる発展のため尽力したいと思う。

(事務局) 委員の皆様には日ごろからあらゆる面でご支援いただき、感謝する。より良い活動ができるよう、今後とも忌憚のないご意見をいただき、改善に取り組みたいと思うので、よろしく願います。

5 その他

(事務局) 3月7日に開催の置賜文化ホール自主事業「KENSYO de JAZZ」の外部評価へのご協力をお願いしたい。

8 閉会

以上